



個人ワークでは、活発なご意見ご感想をありがとうございました。
皆様から寄せられた内容を、掲載させていただきます。

個人ワーク内容

- 1, ディスカッションを聞いた感想
- 2, 質問（別途掲載しております）
- 3, 明日から自職種（自分たち）は何が出来るのか



1, ディスカッションを聞いた感想

- 皆さんの関わりは単に仕事と割り切る義務感では出来る事では無く、責任感、使命感あってのものだと感じ、感銘を受けました。本当にお疲れ様でした。その中でも、手塚さんには MVP を授与して下さい。
- 障がい支援に繋がるまでに受けられる公的支援が少なく、ケアマネジャーの負担が大きいと感じました。
- 大変な事例であったなーと思う。
でも、ケースワーカーさんの介入が、もう少し早くても良かったのではと思う。
- 業務の範疇外直接相談されて、大変だったと思われれます。
- ケアマネジャーです。独居で天涯孤独の方など、自分の業務の範囲を超えて支援せざるを得ないことが、複数名おられました。深く共感しました。成年後見制度など、介護保険以外の制度を速やかに使い始められるといいのですが。

- CMさんの奮闘には敬服しますが、やはり職務の範疇を超えていると思います。制度に不備があると思います。
市の保護課のケースワーカーがもっと早く深く関わるべきでは？
- 日常生活自立支援事業や生活困窮者用の弁当、相談支援事業所などすぐにでも役立つ情報で大変参考になりました。ゴミの処理、ネズミ対策など具体的にヒントをいただきました。
- 私は調剤薬局勤務の薬剤師です。なかなか窓口では患者さんの生活に深くかかわることはできない状況です。
少ないですが、居宅在宅で患者さんとかかわることもあります。
しかし、ここまで深くかかわることはないので、頭が下がる気持ちであります。
- 事例を通した内容でとても分かりやすく身近に感じ、いろいろな支援があることや多職種との連携の必要性を改めて感じました。
- 各職種の連携、お見事だと思います。大変勉強になりました。
- 様々な場面で制度の狭間支援が必要なケース。
関係機関が課題の共有や共通認識を持って支援していったことにより各関係者が従来之力(役割)以上の力を発揮することができ、チームでの支援力も上がったのではないかと感じました。有難うございます。
- ケアマネジャーさんの仕事の域を越えた内容を丁寧に支援されたこと、頭が下がりました。
- 今回の事例については、手塚さん、京谷さんあつての成功例ではと感じました。同時に役割としてどこまでやるのが正解なのかという部分の難しさも感じました。お疲れ様でした。
- 今回の事例に関わった皆様のご尽力にただただ感心しました。
特に手塚 CM がどれだけ大変だったと思うと驚きばかりでした。
その皆様のお陰で問題解決ができた事、本当に素晴らしいです。
8050 問題、このようなとても難しい問題を知り、多職種の連携の重要性を強く感じました。



- このケースは、本来的にはすでに生活保護に繋がっている時点で現在の包括支援センターの自立相談支援機関としての対応ケースではないですし、その後の動きが進まないのであれば、ケースワーカーと障害福祉課という2つの行政機関に課題を引き繋ぐことで、包括支援センターの自立相談支援機関の役割は終了し、今回の展開を行政機関が完結すべきところだったと思います。しかしながらそれが出来ないのが現在の函館市の現状と課題であると考えます。この課題が解決されない以上、包括やケアマネが自身の業務外の対応をせざるを得ない状況が続くのだと思います。生活困窮者自立支援制度下の自立相談支援機関としてではなく、重層的支援体制整備事業としての展開を早期に考慮すべきと考えます。今回のように、手塚 CM や包括ゆのかわの力や民間の現場のやる気にゆだねざるを得ない現状になっている点を行政担当者は十分に認識すべきだと考えます。現在も包括連協と行政機関は積極的に話し合いを実施しているところですので、この意見は単なる行政批判ではなく、「もうできることはない」と簡単に言うてしまう行政機関の風潮があるという現状把握と、制度の間（はざま）の支援の基本となる「寄り添うこと」を第一に考える風潮を根付かせたいという思いからの意見です。
- 本来のケアマネ業務からも外れており、ケアマネの負担が大きく、大変だと思ったが、状況的には対応せざるを得ず、どのケアマネにも起こる可能性のある問題。
- セーフティーネットの機能が縦割りのゆえに生じたケースなのかと感じました。今後、福祉拠点となる「地域包括支援センター」の活躍に期待いたします。
- 身近に感じています。
- 80代のお父さんと50代の娘さんの入退院や生活保護の手続き、有料老人ホーム、障がい者施設、大家さんやゴミ処分など80代のお父さんの世話をしながら各関係職種への連携を支援するないようとなり本当に大変な事例であったと感じました。今後はこのような8050問題の支援が多くなると考えられます。



- とても難しい事例であるという率直な感想ですが、一方で、これから先こういった事例は増えてくることを予感させるようなケースが日々の係の中で増えてきているのも感じています。今日は、そういった際に関わるヒントが1つでも多くつかめると良いなと思っています。
- 手塚さん中心に携わった皆様が大変ご苦労されたことがわかります。函館は高齢化率が他の地域よりも高く、また何故か生活保護も多いため同様のケースは今後も増えていくと思われます。その時にまずどこに相談したらよいかわかったことは非常に勉強になりました。
- 身近なところにある問題にどう介入していくといいのか、大変ご苦労されたと思います。このようなケースは他にもあると思うので、多職種連携がいかに大切か学ぶことができました。
- 特養で介護職をしているため、直接ご家族に関わる事は少ないですが、ショートステイ利用者さんの様子（身なりや皮膚状況）などで、ご家族とご利用者さんの様子が感じ取れることがあります。今回の事例を聞き、ふとそのことが頭によぎりました。手塚さんや周りの方たち、大家さんなのですが、とてもいい人たちに恵まれて、娘さんお父さん共に救われて本当に良かったなと思いました。
- 誰もが、担当になるケースかもしれないと思いました。
- 食料緊急支援サービスのように、緊急で支援(実働できる人)できる人を、市などで早急に対応してもらえると助かります。
- 8050問題、家族支援、金銭問題など、沢山の問題を抱えた利用者様も多くいるので、支援者の方々も大変だったと思います。制度を知ること、相談する事が重要だと思いました。
- 手塚 CM がとても頑張られていて、よくそこまで支援されたと思います。手塚 CM と信頼関係が築けたおかげで、この父子が救われたと思います。それと同時に手塚 CM の負担感が強く感じられ一人でそれほどの重みを感じて過ごされたかと感じました。いちケアマネがこれをするかと言うと、プレッシャーが大きいので、他機関が適切な時期に介入することが重要と思います。



- 娘について、A 病院退院時に訪問看護の導入は考えなかったのだろうか？
また、B 病院退院時でもいいのですが。もう少し早い時期に障害手帳の事や難病であれば保健師の介入もできたのでは。確かにコロナ禍ではあるけれど。もう少し公的な手続きが簡素化して欲しいのと、障害のサービスに繋げるのも時間がかかりすぎます。この様なケースは包括やケアマネだけでは大変なので。
- まずは本当にお疲れ様でした。手塚さんが多くの協力を得られ行動できるケアマネだからこそその支援であったと思います。このようなケースがどれだけ埋もれているのか…
- 自分の担当ではない方のことに関し、どこまでやってよいかわからなくなることは共感できた。
- はじめは手塚さんのみだったようですが、徐々に広がる地域連携のすごさを感じました。ほおっておけない事例だったとは思いますが、みなさんがあきらめずに関わっていたことで1年がかりの支援が良い方向にいったのではないかなと感じました。娘さんへの精神科受診の提案も手塚さんとの信頼関係を壊してしまうのではないかとこの恐怖心があったと思うのですが、それも信頼関係があったからこそできたのかなと思いました。ただ、もう少し早めにケースワーカーが関わってもよかったのかと感じました。身寄りなしではありましたが、本当に親戚関係誰もいなかったのか、定期訪問していれば経済的なところは把握できていたのではないかと感じてしまいます。
- 予想されるリスクが多く支援しながらのCMの苦悩に胃が痛くなるようでした。
- 介護支援専門員の資質が高くこの事例の方は救われたと思いました。社会資源は地方になると少なくなる傾向にあると思われます。自分も昨日生活保護の方が入院され連絡先に記載がされています。家族がいない方なので不安も感じています。
- 多職種連携がいかに大切かを勉強出来ました。
- 安心して生活できるようになり本当に良かったです。



- 周りに支える家族がいたら少しは状況が違ったかもしれませんが。少子化の中で、このような事例が更に増えていくと思われます。自分にも出来ることがあれば、携わっていきたいと思います。
- 最近包括で関わる事が増えてきたケースで、手塚ケアマネ、京谷さんの葛藤がよくわかりました。制度の狭間ではあります。生活保護だった事で、行政の関わりがあった事が良かったです。生保でなければ…と考えるともっと困難な状況になったと思いました。
- 「誰も対応できる人がいないから、包括もしくはケアマネが対応する。」よくある話ではありますが、他機関が果たすべき役割を十分に果たしておらず、機能不全となっていることを補完するものとなってはいけないと考えております。
- 通常の医療、介護サービスでは救えなかった事例だと感じました。手塚さんの負担が大変だったと思います。本来の業務以上みなさんが関わったので救えたと思います。支援された方々に感謝です。本当におつかれさまでした。
- 発表お疲れさまでした。ケアマネさんの役割を超えた対応には正直葛藤もありますが、誰かがやらなければ話しが進まないことであると思います。医療行為に対する同意は本来法的には本人のみにある権利であり、後見人や親族であっても法的効力はないものと思います。ただ、医療従事者の皆様にも説明責任があるので難しい問題ですね。
- 不衛生な環境の支援時に、そのような取り組みを実施している地域を参考に、行政を含めて地域での解決方法を、検討していく必要性があると感じています。
- 本来のケアマネの仕事ではない部分で支援を行う場合、何かあった場合の責任をだれがとるのかといった心配があります。
- ケアマネに求められているハードルがとても高いと感じました。だからこそ、関係機関との連携が重要だと感じました。誰もやる人が居ないとケアマネが頼られますが、ケアマネも困った時には頼れる仲間をもっと増やしたいです。



- 必要な支援を的確に受けられるように、法整備が必要だと感じました。どのような法律にも穴があって支援を受けられない方がいっぱいいると思いました。
- 今回の事例について、本人以外にも取り巻いている環境が大変複雑でケアマネさんの苦労がうかがえました。各地域によって利用できるサービスや制度が異なることもあり、「生活困窮者用の弁当」という制度があることに感心しました。
- このケースの方が現在いい状態になりよかったですと思います。色々な支援制度などがあるんだなと思いました。もし自分が何か困っている方を見聞きしたら、まずは包括支援センターへ相談，連絡したいと思いました。
- なぜ，お父さんの，ケアマネが？と感じましたが，親戚や知人等がいない方にとっては，縋り付いてしまう相手なのでしょうね。当事業所では，本人の意思を確認しながら法テラスに相談しています。
- 父親の支援と同時進行で娘の生活を立て直しできたことは，専門知識を寄せ合わせ，話あったことが大きいと考えました。改めて，多職種との連携が重要と感じました。
- 手塚 CM の娘様への支援を行う上での葛藤が理解できました。娘様の担当ではない中で，病院からの連絡を受け手術の説明を聞くとすると，同席したからには家族と同等の責任が生まれると思うと，ケアマネジャー一人で受け止めるのは大変なことだったと思います。
包括の自立支援で対応ができるのではと考えましたが，すでに生活保護のCWがついているとなれば，どのような介入ができるのかを，今回の事例を通じて検討したいと思いました。
- 症例の経過に驚く事ばかりでした。一連の出来事に支払いが発生しないのによくここまで解決できたと感心します。
- 高齢者ではない方に生活支援が必要であった場合に，相談先が容易に見つけれないことを感じました。親身に対応されたケアマネさん，大家さんなど素晴らしいですが，是非制度が拡充されたらいいなと思います



- 身障の手続きに関しては、本人に能力を判断するのは困難と思いますが、診断書の期限切れと時々耳にします。申請したかどうかの確認は私たちも必要かもしれません。
- たったひとつのケースを解決に導く為に、これだけの労力・時間がかかるのかと考えさせられた事例でした。改めて多職種連携の必要性を学ばせて頂きました。土曜日の昼下がりにしては、濃過ぎる内容です（笑）
- 自分の仕事の範疇ではない部分にも関わらず、様々な方が関わって良い方向につながる事ができた事がすごい事だと思いました。その上で医療者側として使える制度について、どこに相談すれば良いのかなど勉強していかなければいけないと感じました。
- 少子高齢化という日本の問題の縮図のような事例だったと思います。医療や介護等のシステムがきちんと判断ができる家族がいる事を前提にしているものが多々あると思う。その例外が出てしまうと本人はもちろん身の回りの人が困難に陥ってしまうため、その隙間を埋める制度がより整備されていくことを望みます。
- 程度の差はあれ、みんなが抱えている問題だと思う。同時進行で二人の支援を行うことは大変だったと思う。本当に、どこに、誰に相談すればいいのかが分からずに悩むことがあるので、相談先が分かるだけで助かる。
- 事例の娘さんですが、幸か不幸か医療に繋がったことで問題解決に割とスムーズに進めたのではないかと思います。引きこもりが絡む問題は、なかなか第三者の介入が難しいことが多いです。事例の父親は介護サービスを使っていたことで、居宅 CM の介入から包括へと支援の手が広がりましたが、逆にまだパワーのある親世代で、医療に繋がらない引きこもりの子供世代というパターンでは、事例のように皆で問題を明るみに検討する、という事が難しいのではないのでしょうか。



- 私は地域包括ケア病棟に勤務しています。今回の研修の様な事例の様にKPとなる子供が障害を抱えている場合もあります。CMさんの介入があり頼る場面もあります。病状説明、問題なく退院できるケースであればいいのですが、医療や人生の選択の場合は病院側は難渋するケースでもあります。病棟看護師として「あとはCMさん（あるいはMSWさん）とはならない様に支援しています。しかしながら病棟看護師としては今回のケースの様な場合は知識も薄いので各職種のかたが支援する内容を「そうなんだ…」と聞いているばかりです。
- かなり大変なケースだと感じました。訪問している中で似たようなケースが多々ありましたが、多職種連携の力強さを感じました。勉強になりました。ありがとうございました。
- 必要な介入が適切行われて、連携がうまくされて良かったと思う。
- 様々な困難事例がある中で、多職種連携でのチームアプローチの素晴らしさを感じました。ご利用者様やご家族様がこちらの働きかけを必ずしも受け入れてくれるとは限らないので、信頼関係の大切さを感じました。
- 娘が入院しても、父のCMに連絡があったりする事や娘の生活を整える事迄、本人家族にとって、社会との窓口がケアマネジャーである事は、良くある事だと思いましたが、他職種の連携により必要な支援ができて良かったです。関係者の皆様お疲れ様でした。
- 日常生活自立支援事業や生活困窮者用の弁当など、大変参考になりました。皆さんの働きに敬意を表します。
- 利用者様の支援とその娘さんの支援をすることで双方が不利にならないようにさまざまな所との連携がみることができました。ケアマネの役割としてどこまでかかわることが良いのか新人の私にはわからず足踏みをしてしまうような事例でした。
- 生活していくために制度の利用は必要だが、繋がっていない、自力で繋がって行くことができない方に、誰がどの様に対応していくのか、考えさせられた。ケアマネ、包括ともに高齢者が対象者であり、どこまで。ただ皆が協力したからこの親子の生活が良い方向に進みよかったなあと。



- 複雑な課題を抱えているケースに関して多職種が連携したことで、父、娘ともに本人らしい生活に繋がったと感じました。今後、さらに複雑な課題を抱えたケースも増えていくと予測されるなか、業務を行うにあたりジレンマを抱えることもあるかと思います。その点についても検討していく必要があると感じました。
- こういう問題は今後も多く出てくると思います。ケアマネジャーが一人で抱えるのではなく、他機関との連携を強く感じました。
- 仕事の範疇をこえなければ、救えない人がでてくる、現実があるのだと思います。
- 不衛生な生活環境問題、相当なケースが想定されます。ごみの分別ボックスなど、判りやすい整理整頓グッズを支援出来る仕組みづくりはいかがでしょうか。ごみの有料化に伴い、分別がわからない方々が増えてます。
- お父さんのケアマネと繋がる事ができて、娘さんは良かったと思います。そこから世界が変わって広がっています。
- 独居で身寄りのない方の支援をした事ありますが大変でした。共感する部分がありました。
- 本ケースの様に相談相手がいない世帯は一定数いると感じます。本ケースでは手塚ケアマネさんが娘さんの支援を誰かに押しつけず、支援をし始め、さらに色々な人に相談した事で、支援者が増え、素敵な支援に繋がったのだなと感じました。
- 実はこのような事例はたくさんあり、一つ一つにそれぞれ理由や事情が違い、それを理解して寄り添って対応する責任感使命感のあるケアマネに脱帽です。
- 関係機関との連携と情報共有、業務分担をしっかりとすることによって、支援者・支援する対象者にとっても、専門的に関わられるのかと思いました。関わった担当によって負担が強すぎると本来の業務への影響も強いと思いますので、今後の業務では連携をしっかりしていきたいと思います。



3. 明日から自職種（自分たち）は何が出来るのか

- 事業所内や包括だけでなく、他の居宅、他事業所や他職種に話を聴いてもらったり、相談できる仲間づくりをますます進めることが必要。様々な社会資源、制度を知ることが必要。
- 制度を理解し、相談窓口を明確にしておくこと。そして困難事例に関わる際、自分ひとりで抱え込むのではなく、地域の資源やネットワークをうまく活用していくこと。そのためにも、この多職種研修会は意義のあるものだと思います。
- 研修会で顔を合わせることが無く自事業所内での相談が増えていることにやや不安を感じています。
- 8050 問題のケースに実際に関わっているので、今後は包括さんにも情報を伝え、何かあったときに備えたいと思います。
- 今回色々お話を聞かせていただき、今まで自分が持っていた情報の他にも相談ができる窓口や行政機関等の知識を得ることができました。今後もっと社会資源やネットワークを活用し、相談や利用できる制度等の引き出しを増やしていきたいと感じました。
- 包括と行政と嫌がらずに連携を図る事が大事だと思いました。
- いち相談員、いち事業所で解決しようとするのではなく、多種事業所が集まり、情報共有の会議を持つことが重要であり、それにより負担感が減少するのではと感じました。
- 常日頃他職種とのつながりを持つことで相談も行いやすいと思っています。介護支援専門員としても対人援助の技術の習得や顔見知りを増やしていくことも重要と感じています。
- 日頃から情報収集し、自分の担当の範疇を超えそうな時や対応に悩んだときに相談する先を想定しておくこと。
行き詰まる前に、早めに関係機関に相談し、情報を共有しておくこと。



- 薬剤師としてできることはアドヒアの維持・向上のため薬の管理方法の提案、ポリファーマシー改善のための処方提案があるかと思われます。
- 一人で抱えこまずに早めの相談を心がけて行きます。
- 幅広い知識や社会資源、制度を学んでおくことで早めの相談、多職種連携につなげていき、問題解決をしていけると感じました。
- 鍼灸マッサージ師は、患者さまと話をする時間を多く取る事ができるので、些細な事でも異変を感じたら、多職種の皆さんと協力していこうと思いました。
- 薬局の患者さんも一人暮らしの高齢者が増えているので、積極的に声をかけて支援が必要な人たちを包括さんに紹介していきたいと思います。
- 病院の相談係です。このようなケースが増えているという現状を院内の医師や看護師にも理解してもらい、病院として何が出来るか、協力できるのかを一緒に考えていきたいと思いました。
- 全然関係のない話で恐縮ですが、当薬局利用の生保の患者さんで、自己管理が全くできない方がおり、お薬の保管もままならないため、その方の CM に相談したことがありました。担当の CM からは、その利用者の方は何でも利用しようとするから放っておくようにと言われてしまい、担当した薬剤師もそれ以上どうすることもできない状況になってしまいました。こういう場合はその方の包括支援センターに問い合わせるべきだったのですね。今回は大変勉強になりました。
- 世代に関わらずに、世帯として捉えて障がい、医療など多職種と関わる事の重要性を改めて感じました。
- 『介護施設管理者の立場として』単純に、利用者家族に係る業種の苦悩を多職種で共有・共感していくこと。周囲の理解があるかないかで、モチベーションは変わると思う。



- 声をかけてもらえたら、一緒に支援する。自分のケースの場合は、一人で抱えず、一緒に支援してくれる人を探す。日頃から支援してくれそうな人を探す。
- 気軽に相談合えるように、お互いの役割を知ること、担当者の考え方を理解すること。
- 一人では抱え込まずに、事業所内、他事業所、包括等、相談できる関係を維持することが大切。そんな意味でも、コロナ禍で顔を合わせて話をできる機会や研修ができなくなっていることは残念。多職種連携などいろいろな人たちとのつながりを大切にしたい。
- 幅広く制度やサービスの知識を持つことが必要だと感じました。今回のケースだと都度、活用できる制度を利用し対応されていたので、関わる専門職の皆様と、それぞれが出来る事を共有し役割分担しながら支援していけるようにしたいと思いました。
- まず、専門分野以外の支援がどのようなものがあるのかを普段から気にかけておく事を心がけておきます。
- それぞれの機関の制度、役割だけでは、狭間の支援が難しいと事例を通じて感じました。その狭間をケアマネだけで埋めようとせず、他の人にも役割を越えて協力を仰げるようなチーム作りをケアマネとして取り組んでいきたいと感じました。
- 今まで以上に病態だけではなく「生活するひと」ということを意識して関わりたいと思いました。相談できる窓口を学ぶことができたので活用していきたいと思います。



- 高齢者施設と8050問題は、そこまで関係性がないようであり、実は身近に感じている今日この頃です。実際これまで関わったご家族の中にも、社会から出来る限り関わりを持ちたくない、それと同時に生きるベクトルが全て親（特に母親に多い…）に向いていることも多く、今後入所している親が亡くなったら息子さん（又は娘さん）はどうするのだろう、と心配することも何度もありました。

私の場合は施設と家族という関係で繋がっているので、出来るだけコミュニケーションを取りつつ何気ない会話の中から情報を細かく得ていくようにしています。依存が強くなればなるほど、トラブルに発展しがちなので情報は記録に残し、施設内の他部署への共有が大事に感じています。

- 受診や入院をきっかけに本人・家族の生活上の問題点が見えてくることもあるので、まずはそこに気付けるように他職種で意識すること、少しでも気になる事があれば院内の他職種だけでなく包括支援センターの担当者やケアマネさんなどと幅広く連携をとって考えていくことができると思います。

- 目の前にいる患者さんを救いたいという気持ちが大切と感じました。多職種の力が合わされば困難も乗り越えられる可能性がありますね。薬局の薬剤師として薬の専門性を活かして関わっていきたいと思います。地域ケア会議やカンファレンスにも参加していきたいと思いますので、是非、お声がけください。

- 本人の直接の心身状態に限らず、周りの状況や環境などにも注意し必要な情報提供を行う。気がついた事は、一人で抱え込まないで他職種と連携し共有していく。

- 一人で抱えこまずに解決できる方法を模索します。



- 様々な課題を抱えた方に対応するために高齢分野に限らず知識を身に付けなければいけないと思いました。制度の網からこぼれてしまう方にどう対応していくかということでは皆さんが一丸となって制度化するためのアクションも必要なのだと思います。制度がないからとあきらめてはいけませんね。

- デイケアの療法士という立場は、対象者さんのお話をゆっくり聞く時間が取りやすいので、今後も気になる状況があった時にはケアマネジャーさんなどとの連携を大事にしていきたいと思います。

- 様々な職種の方々との連携が、とても重要であると感じました。自分だけでは解決できない問題は途方に暮れてしまっていますが、あちこち相談できる事を心強く思って、わからない事を恥ずかしながら相談して行きたいと思います。
- 連携して支援する可能性がある機関には、早い段階で一度相談しておくことを心掛けたいと思いました。
- ひとりで悩まず相談すること。
- 薬剤師の訪問指導業務があまり知られていないので、他職種の方々にアピールしたいです。
- 現在も同じようなケースや似たような家族状況にある方に関わっているので、少しでも困難に感じた場合などは包括さんなどに相談して、早期解決に繋がるようにしたいと感じました。
- 在宅ケアに関しての制度・協力事業所・行政窓口などを十分に理解する。そのうえで、薬剤師としては薬の管理や効果・副作用のチェック、関連職種への必要な情報提供。
- 引き続き、利用者や家族、関係機関に寄り添う福祉を目指して、行政とタッグを組んで頑張っていきたいと思います。
- 訪問マッサージで多くて週3回4回はお家に行って施術をします。その中で今回のようなケースに似たような事があります。身体だけではなく、気になる点や些細な変化を見逃さずに、ケアマネジャーさん、包括さんなどに報告、相談する事が重要だと改めて感じました。
- 今回の研修が大きな地域ケア会議に参加したような感覚でした。皆様の疑問が地域に足りない制度や資源の抽出に繋がるのではないかと感じました。
- 様々な年代の方を鍼灸施術する中で多々お悩みや困りごとの相談を受けることもあるので、支援の手が届いていないなと感じた時には地域包括支援センターへの相談というのを頭において日々地域の方とかかわりながら施術をしていきたいなと思います。



- 福祉拠点(自立相談支援機関)なので、相談された人が、たらいまわしに感じないよう、まずは日ごろから他職種の役割を頭にいれて、対象となる人が適切なところにつながるよう支援していきたいです。
- 基本的に特養の入居者問題はその中の職員で解決するのですが、例えばその家族が何か本人の問題以外で困っている事があれば、包括や相談支援事業所への連絡を促したりしていきたい。障害福祉サービスの制度を本日で知ることが出来たので、新たな引き出しが増えたかなと思います。
- 支援や他職種へ繋げる必要なケースに出会った時に速やかに繋げることができるようネットワークと様々な知識を持つことが必要であると感じました。
- 大変参考になりました。色々なケースに興味、関りを持って、積極的に、各関係機関と相談支援を進めていきたいと改めて感じました。
- 包括として社会資源の整理、情報提供、開発等に取り組んでいく必要があるとあらためて感じました。お互いに相談できる関係性構築にも努めたいと感じました。
- 解決に向かうように情報共有、支援方法のスキル等への相互理解を深めるためにも他職種連携のつながり大切だとより感じました。
- 一つの課題には様々な複合的な課題がある為、自分の役割はもちろん他職種の役割や制度についてしっかり理解していないと必要なつながりを作ることや、支援に繋がらないと感じたため、常に知識を深めていけるよう努めていきたいと思いました。
- 今回の研修で学んだ事は、実際の現場で遭遇するケースだと思います。「看護師」として単体で出来る事はなく地域をとりまく一員として、学びながら日々の支援に活かしていきます。ありがとうございました。
- 老人福祉施設で働いていることもあり、身近な人から相談を受けることもあります。制度や、相談窓口、行政での取り組みなど積極的に専門外の知識でも吸収し、適切な対応ができるようになればと思います。



- 手塚さん, 京谷さん, 支援者の皆さん, お疲れ様でした。ケースに関わる姿勢に感銘を受けました。このような事例の積み上げ, 現状課題の積み上げが, 今後につながると思います。今は挟間があっても『制度は後からついてくる!』多くの分野の専門職が連携して実績を作っていければ良いと思います。
- 自分の視点だけではなく, 多方面からの広い視野で課題を見つめ, 様々な意見の中からそのケースにとってのベストが尽くせるよう協力できる関係性を, 職種の垣根を越えて築いていきたいと思います。
- 手塚さん, 京谷さん, 関係者の皆様, 大変お疲れ様でした。勉強になりました。今後の業務の参考にさせていただきます。ありがとうございました。
- 非常に興味深く勉強になる研修会でした。参加(聴講)の機会をいただきありがとうございました。
- 特養の相談員をしておりませんが, 在宅生活を支援するための制度や様々な社会資源について, 事例を通して勉強させていただきました。普段なかなか触れることが少ない障害分野の制度の活用方法や相談窓口について理解が不足していた部分も確認でき, 自施設内でも情報を共有していきたいと思います。
- 1人で抱え込まずに, 包括支援センターに相談しようと思います。
- 今までも心掛けてきたことではありますが, 課題が重複しているようなケースに対応する場合には, 1つの機関で抱え込まず, 一緒に関わる機関を増やして適切に連携しながら行っていくことが大切だと改めて実感しました。
- 先日, 認定調査をした方から, サービスの相談があったが, 実際は, 親族間の金銭問題がはまっていた様子があり, 相談を受けてから, 包括に相談させていただくケースがあった。今後, 早い段階で相談をして行けるようにしていきたい。



- 4月からの自立相談支援事業では様々な年齢層からの相談があり、高齢者支援とはまた違った視点での介入が必要であると実感しております。
ケースバイケースでしょうが、当事者への伴走型支援を考えた時に、自分自身の価値観で判断していないか・支援していないかという点を常に振り返る様に心掛けております。そういった点からも多職種連携による様々な視点が重要と考えます。また、良い連携の構築のためには、他職種の役割や業務理解、自職の役割や業務を理解してもらうということも重要だと思います。それらを意識して明日からの業務にあたりたいと改めて感じさせられました。有難うございます。
- 一人で抱えず相談しながら解決。
- どこにどう相談していくのか？適切なつなぎ先を選定できるようにするためにも、普段の情報収集や日頃の経験の積み重ねで「相談する力」をつけることも必要と感じました。
- 医療、障害の知識を持つ事が大切だと思いました。困ったら包括に相談します。

